

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風 朝風 I		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170400956-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が毎日笑顔で楽しく暮らせるように本人、御家族とのコミュニケーションを大切に職員が日々ケアの向上に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲山を望む豊かな自然に恵まれた環境に位置するグループホームで、母体法人の病院と廊下で繋がっており敷地が広い。地域の付き合いが盛んで、公園の草刈りには職員と利用者が一緒に参加している。散歩時には近所の方から気軽な声掛けが得られる。近くの幼稚園児が母体病院のフロアで年2回、歌や踊りを披露してくれるので、同法人のグループホームの利用者も含め大勢の方が一緒に参加している。2か月に1度の運営推進会議には、町内会長、地域包括支援センター職員、家族等が参加し、市の出前講座や家族の会、歯科医師からの講師をゲストに呼び、参加者に興味を持ってもらえる内容を工夫している。医療面では、毎月、母体病院の主治医による訪問診療に加えて、毎日、看護師である管理者の健康チェックもあり、利用者・家族の安心につながっている。災害対策では、法人合同の昼間・夜間対応の避難訓練の実施に加えて事業所独自の訓練もあり、職員の救急救命訓練や災害時の備蓄品等の準備も行われている。利用者一人ひとりの人格を尊重しており、職員の言葉かけは優しく利用者も笑顔で対応している。毎日の食事は、栄養士と管理者が月1回献立会議を行い彩りの豊富な食卓を工夫し、畑で採れた季節の野菜も食卓に上っている。職員と利用者は同じ食事を「おいしいね」と、楽しく会話しながらとっている。建物は全体が広くて明るく、掃除が行き届いている。トイレが多く、設備が整っており、季節の装飾も楽しく飾られている。居室は利用者の個性を活かし居心地のよい空間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人理念として掲げゆっくり、一緒に、楽しく、地域に根差して生活できる事を目標に日々取り組んでいます。	地域密着型サービスの意義を踏まえた運営理念と、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しい暮らし」の三項目からなる介護理念が、各ユニットと事務室に掲げられている。職員は理念を良く理解し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の総会や公園の清掃に参加、連合町内会のお祭りに参加、小学校の資源回収に協力、近隣幼稚園の年長さんとの交流も続いています。	毎年職員が近所の公園の草刈りを行っているが、今年から利用者も一緒に参加している。また、散歩時に近所の方から声かけがある等、地域での付き合いが深まっている。近くの幼稚園児が併設している母体病院のフロアで年2回、歌や踊りを披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に日々行っている支援の報告を行い認知症への理解をしていただいています。又地域の人に役立つ情報も提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会が高齢になってきているため、防災について出前講座利用して昨年、今年と防災についてご家族、包括の方と学ぶ場としています。	会議には、町内会長、地域包括支援センター職員、家族等が参加し、2か月ごとに開催している。年間テーマを設定し、外部評価についても話し合っている。市に出前講座を依頼したり、家族の会、歯科医師にも講師の派遣を依頼している。議事録も全家族宛に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護度申請、介護度区分変更申請、オムツサービス申請、などで市の担当者と連絡を取りあい協力関係を築いています。	市役所には出前講座を依頼しており、区役所の担当者とは日常的に協力関係を築いている。一昨年は、管理者が区の管理者会議の代表も務めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を職員が理解し身体拘束をしないケアを実践しています。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の理由でおこなっています。	「身体拘束防止マニュアル」が整備され、各ユニットの事務室に「禁止の対象となる具体的な行為」を掲示している。また、管理者は日常的に身体拘束をしないケアを話題にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外で実施されている研修への参加、及び通達を確認しながら職員への周知を行っている。また研修内容を合同会議で発表し意見交換を行い防止の徹底を図っています。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年後見人選定を申し立てた方が1名います。後見人制度について学ぶ場となりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時 利用者、家族に十分な説明と話し合いをもち理解と納得をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者、家族の意見、希望に耳を傾け毎朝のミーティングやフロア会議、運営推進会議においてに反映している。	毎月の清算時に、家族に直接支払いに来ていただき、管理者が話を聞いている。家族の訪問も多く、その都度管理者が対応している。家族の意見は「連絡ノート」や「介護記録」で全職員が共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は共に現場で考え助言する統括ホーム長を組織の中に置いており毎日のミーティングまたは月一回のホーム長と管理者会議において職員の意見の反映につとめています。	職員は困ったことや意見があれば、管理者や、法人の事務長、理事長、統括ホーム長にいつでも相談できる。また、毎朝の合同ミーティングと2か月1度の合同会議に統括ホーム長が参加し、職員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括ホーム長に職場状況を日々報告し環境整備、条件の整備をはかっていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	札幌市やグループホーム協会主催の研修に参加しスタッフ全員に報告し質の向上に努めまた、職員の介護福祉士への資格習得への志をサポートしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席し意見交換行っています。介護職の研修に参加し他の職場の方との交流を持っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受付窓口は運営法人の相談員で入所前より相談員より情報をいただいております、また施設見学時に不安なこと、希望などに耳を傾け良い関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時利用者、家族から不安なこと希望が出しやすい雰囲気づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族、本人の要望を確認し、できる事出来ない事をしっかり説明する事で、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学び得る事は多々あり(人生の先輩)職員はその入居者に感謝の気持ちをもちながら接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現況報告を月一回必ず行い、入居者自信を中心とした関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊や家族、知人、親類の面会の時間や馴染みの方への手紙での交流を大切にしています。	利用者は、家族の協力を得て、墓参りや法事、お正月を家族や親類と過ごしたり、外食を楽しんでいる。また、自筆で年賀状や手紙を書くことができる利用者は、職員と一緒に病院のポストに投函しに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶会、誕生会 パスレクレーション 収穫祭 等皆で楽しむ行事を企画して支えあう関係をきずいています。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係はこれからも継続する事を伝え気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人御家族の意向を聞くようにしており、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践 評価を通して思いやり意向をしっかりと捉える努力をしています。	思いや意向の把握が困難な利用者には、日常の態度やしぐさ等を参考に把握するようにしており、ライフストーリー表やアセスメントシートも定期的に見直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出生から現在までの生活歴をかいていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護師が毎日健康チェックして記録しています。介護記録に毎日の過ごし方を記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム、家族、本人(難しい場合本人の意向)を含めて共同で作成している。	利用開始時に介護計画を作成し、その後は1か月、6か月を基本に見直しているが、介護計画作成者以外の職員が更新時期を意識していないケースもある。また、日々の記録に介護計画を意識した記載方法も検討中の課題である。	職員が介護計画の更新時期を意識しながら見直しに行くことを期待したい。また、日々の記録に介護計画を意識した記載方法の確立を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間に応じ見直しを行っており、又、本人の変化が生じた時にはその都度対応を検討し、プランの修正をおこなっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園との交流会や、立花病院で行われる納涼祭、盆踊り、敬老際、Xmas会、毎週金曜日に行われるカラオケに参加カラオケは5名の方が毎週歌っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である協力医療機関や、他科など利用者が希望する医療機関への支援体制も確保しています。看護師が日常的な健康管理や受診経過の把握、医師との連携で医療支援に努めています。	毎月1回、法人の主治医による訪問診療があり、毎日1回、看護師である管理者の健康チェックがある。他科への往診は基本は家族対応だが希望があれば事業所でも対応している。医療情報は「医療連携記録」に記載して全職員で共有している。	

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり日常の健康管理を毎日行っており常に職員に助言、対応を行い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換、共有しつつ、入院中も安心して過ごせるよう配慮、支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者と家族で随時話合いの場を設けてその都度方針を確認しあっています。	利用開始時に「重度化した場合における対応について」を家族・本人に示し、同意書に署名捺印を得ている。重度化した場合は法人の主治医が立会い、家族が納得した上で方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院と医療連携をとっており急変時は日中、夜間共に診察を受けれる体制になっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近年毎年おきる災害に対して札幌市の出前講座利用昨年今年と防災について地域の方やご家族と学習させていただき災害時の対策を見直すことができました。	同法人の病院及びグループホームと合同で昼間・夜間対応の避難訓練を実施している。また、事業所独自の夜間訓練を消防署の協力を得て行っている。職員の定期的な救急救命訓練や災害時の備蓄品等の準備も行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを守り、言葉や、語調について配慮し支援しています。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、接遇に関する母体病院院長の訓示を受け、20項目の介護の心得を学んでいる。個人記録類は事務所で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる人は意向を確認し支援し自己決定難しい人は表情や仕草から気持ちを読み取り、可能な限り意向を確認し支援するよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、必要な支援を行っている。又本人のペースを尊重しつつ体力や、状態にあわせた生活の組み立ても考え支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ、訪問理容、美容を利用し、一人一人が大切にしているおしゃれや身だしなみを支援しています。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食時には音楽を聞きながら職員と一緒にメニューを確認しながら食事をします。又個々の誕生日には希望のメニューにしています。	栄養士と管理者が月1回献立会議を行い、彩りの豊富な食事を提供している。利用者が下ごしらえや下膳、食器洗いを手伝っている。畑で採れた大根やキュウリなども食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1000mlの水分を取るよう支援しています。専属の栄養士が栄養バランスを考えた献立を作り個々の状態に応じた食べ方を指導してくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨きをしていただいています。自力でできるひとは声かけしています。出来ない方はこちらで支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎にトイレ誘導し排泄の失敗を少なくしています。	ほとんどの利用者が自力でトイレに行くことができ、職員が見守りながら必要に応じて介助し、排泄状況を記録している。声かけをする場合は耳元で行うなどプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の出る時間を把握しトイレ誘導しています。又食事メニューに繊維質のあるものを取り入れたり、水分を多めにとっていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している。本人の意向で熱い湯、ぬるい湯と調整したり、入浴剤で温泉気分を味わっていただいたりと入浴を楽しんでいただいています。	週4回の入浴日を設け、主に午後の時間帯で各利用者が週2回以上入浴している。現在は入浴を強く拒否する利用者はいない。湯加減を希望に合わせて、入浴剤を使って楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休めないとき、職員が話し相手になったり眠れるよう1人1人にあつた方法や環境を把握し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示に基づき、わからないところは確認しながら服薬の支援と変化の確認につとめている。誤薬がないようスタッフ間で声かけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報から職業や趣味を生かし役割分担や行事参加等の楽しみを利用者とともにしています。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と昼食を共にするためや教会へ行かれるために外出したり、毎日の天気に合わせて戸外散歩や買い物に出かけたり、バスレクリエーションで水族館や大きな公園行ったり、外食にでかけたりしています。	暖かい時期は毎日のように中庭や母体病院を含めた広い施設の敷地などを散歩しており、家族の支援のもと自宅や教会、外食に出かける方もいる。年間行事では、花見や小学校の運動会、水族館などに行っており、個別の買い物の同行も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の認知能力に応じてお金を所持させています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の認知能力により電話や手紙を書いていたいており、相手よりお手紙が来るととても喜んでおります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾をし又利用者の作品や写真を貼り楽しみがもてるようにしています。入居者の皆さんは装飾、写真、作品を貼るのを楽しみにしております。	広い居間部分は1階も2階も大きな窓から日差しが差し込み、とても明るい。壁には季節の装飾や絵画、切り絵や塗り絵、利用者の写真、幼稚園児からの贈り物などが楽しく飾られている。トイレが各階に5か所設置され、建物全体が暖かく清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのソファの座る位置がそれぞれきまっております。それぞれが一番安心できる場所になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのタンスやイスをもってきていただき、居室内で心地よく過ごせるよう配慮しています。	居室には備え付けのベッドとカーテンがあり、テレビやたんす、鏡台など利用者が自由に持ち込んでいる。壁にもカレンダーや家族の写真などを飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路、トイレ浴室には手摺がついており安全に使用できる、各スペースも広くつくられているので車椅子でも安全に過ごすことができる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風 朝風Ⅱ		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成27年11月8日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護理念 1 ゆっくり 2 いっしょに 3 楽しい暮らし</p> <p>御家族の心身の負担が軽減しご本人も我が家のように穏やかに過ごせるように支援し落ち着いた環境でゆっくりと共に生活している。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170400956-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差した穏やかな暮らしを大切に利用者への命と心のケアと家族の心身の緩和に努めます」という理念を掲げて実践できるよう努力していきます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し総会に出席している、草刈に入居様と一緒に参加しホームの事を町内の方に話したり町内からのアンケートに答えている。隣接の病院で町内の方会った時は挨拶近況など話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の人をテーマにした講話を行い出席している包括の方からのお話も頂き地域に貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で自己評価を公表している、行事や生活についても報告し話合っている、町内会の悩み等も聴くことができ災害時の支援についても考える場となっている。推進会議録はご家族に送り周知して頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者へ電話し分からない事を聞いて知識を得てご家族へ連絡している。管理者会議にて市の情報を得ている。アンケート調査に回答し実情を報告している。認定調査時情報を提供をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ防犯上の理由で施錠しているか、日中は開錠し自由に出れる様にしている。身体的拘束はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修などにより全職員が周知し生活の中で虐待になるかその都度話し合いをしている。入居様の反応をみて虐待に繋がらないように考慮し防止している。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の資料を読み勉強し理解して必要時活用支援できるよう努力していきます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「重要事項説明書」「運営規定」「利用契約書」などをもとに十分な説明を行って理解納得できるようにしています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、第三者委員を設置し、苦情処理に努める様にしています。又、家族から気軽に相談、話ができる様にし運営に反映出来る様にしている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括ホーム長と朝礼時、問題や意見を出し合い出席していない職員へ伝え話し合い日常的に提案を反映出来る様に努力している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力実績などお互い評価し合っていることなど、統括ホーム長へ報告代表者に伝え向上心を持って働ける職場環境になる様に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修計画をたて必要な研修に必要と思われる職員が参加し学んだことを合同会議で勉強会を行っている。参加できなかった職員へ伝達できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議でグループワークの中で交流他のグループホームの情報を得てサービス向上のヒントを得ている。他の区の研修に参加した時や知人が勤めているGHの話聞いて勉強している。			

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営法人の相談員との連携を良くし本人家族からの話をよく聞いて利用者本位にたった支援ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年は4名の新入居者があり、それぞれの状況に合わせて対応し家族へ報告し安心して生活が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聞いて必要なサービスを支援している、主に病気に関することが多く他科受診、リハビリ受診、歯科往診等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事はさりげなく支援し本人の出来る事は手伝って頂き、生活が楽しめる様お互い助け合い暮らしをしていく姿勢で生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時居室で大切な時間を過ごして頂ける様にお茶を提供、写真を見て頂き生活の様子を伝えている、気軽に話せる雰囲気の中で本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりの家族や馴染みの人と関係が途切れないように連絡したり、気軽に訪問できるような環境づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や能力を把握しホーム内の仕事、遊び、余暇活動の中で声かけ合い助け合いながら生活できる様に職員一人一人が周知し支援している。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された後も本人を訪問したり家族に会った時は声かけをし話を聞いて支援できるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族の思いや希望の理解に努め出来る限り本人本位の暮らしが出来るよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人家族友人知人から聞き取りを行い情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中からひとりひとりの心身の健康状態有する能力等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるためにアセスメントに基づいて目標をたて関係者と話し合い意見を反映した介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録にケアしたこと様子等記入し情報を共有し申し送り必要なことはその都度話し合いカンファレンスノートに記入介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ、その時の状況に合った対応ケアができるようにしている、協力医療機関の行事に参加やケアハウス訪問販売へ行きおやつ衣類購入の支援や幼稚園児との交流会などに参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう周辺地域から協力を得ることが出来るよう理解を広げる働きかけを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医である協力医療機関のほか他科など希望する医療機関への支援体制が整っている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者である看護師が常勤不在時の情報報告により、いつでも外来受診で医師と相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報を提供し病院関係者、家族意向本人の意向、病状により4名の方が入院継続となり情報交換、訪問などにより関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応(看取りの方針)について家族と話し合いを段階的に行い不安のない様に支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は病院勤務の経験者が殆どであり急変時事故発生時の対応について学習している。協力病院が隣接し24時間体制で対応している、看護師が常勤しともに学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・母体病院の協力を得て年二回訓練を行っている、ホーム内でも行い全職員が周知している。運営推進会議で災害時をテーマに市の出前講座で学習し町内の方と話合っている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけ関わりをもってプライバシーを損ねるような対応にならないよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人お思いや希望で自己決定に結びつけている。表情やしぐさなどから思いをくみ取り自己決定に近づけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団で行う活動を優先することもあるが、本人のペースを大切に希望に添った暮らしが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて現美容院の利用を支援し身だしなみやおしゃれが出来る様にしている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ食事を一緒に食べ、さりげなく観察し栄養士に報告し献立・調理に活かしている。職員と一緒に片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え栄養士が献立を作り、一人ひとり食事・水分量を把握できる様にしている。その人の状態に合わせて食事の形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎食後の口腔ケアは一人ひとりの能力に応じ声かけ・見守り・介助を行っている。義歯の定期的洗浄実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを出来る限り使用しないで済むように一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をプライバシーに配慮して行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行を毎日行い、野菜が多い献立を専属の栄養士が立てている。排便の状態を把握し下剤調整浣腸を看護師が行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが体調や希望により変更したり拒否されたときは時間をずらし声かけ本人のペースでゆったりと入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室や共有のスペースのソファで自由に休息を取って頂き、夜間は居室の室温・寝具の状態・入眠状況の確認を行い安心し気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬についてほぼ理解しておりその人の力に応じた服薬支援を行い症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人っひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように配膳・お茶入れ・掃除・縫い物・洗濯物たたみなど、その人の力に応じた役割を担って貰ったり、個々の希望に添った気分転換にも対応できるようにしている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い季節にバスドライブ・ホーム前庭散歩・病院中庭散歩・敷地内であるが公園で一時を過ごすなど戸外へ出る機会を多くし支援している。家族の協力を得て外出して頂くなど工夫している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人は自分で管理しているが、使用するチャンスが無いようである。日常の金銭管理が出来るよう希望に応じ支援できるよう努力する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるようにしているが、少なくなってきた。電話の利用・手紙など推奨し支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファの位置など工夫し過ごしやすい空間作りに努めている。季節の花を飾ったり作品を飾り季節感を楽しみ、家庭的な雰囲気を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂のテーブル・ソファ・椅子を自由に使い好きな空間で思い思いの生活ができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みのある家具や生活用品・装飾品を置いて頂き、安心して過ごせる様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り、自立支援を図り安全に過ごせる様にしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 朝風

作成日：平成 27年 12月 21日

市町村受理日：平成 27年 12月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	現状の記録では介護計画の更新時期を見直した介護計画に沿った記録が不十分である。	全職員が介護計画に沿った記録ができるようになる。	2年前より検討してきた新しい記録用紙ができたので、介護計画に沿う記録の書き方を1階2階の合同会議で話し合い実践していきます。	6か月～1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。